# 南極周回気球による電子加速源の探索

# 神奈川大学 田村忠久



### 昭和基地におけるPPB(Polar Patrol Balloon)の例





### PPB-BETSの足跡

- 2000年3月 南極地域観測第V期5ヶ年計画:第2次PPB実験計画公募
   宇宙物理学的観測の分野でPPB-BETSが採択される
- 2000年 PPB-BETS検出装置の製作開始
- 2001年 テスト用トリガーシステムの製作
- 2001年8月 三陸でのトリガーシステムのテストフライト
- 2001年 PPB-BETS検出装置の調整
- 2001年10月 CERNでの電子・陽子ビーム照射実験
- 2002年 環境試験、調整、キャリブレーション
- 2002年12月 第44次隊 昭和基地での放球、装置浮上せず、回収
- 2003年 熱対策強化、充電システム改良、環境試験
- 2004年1月 第45次隊 昭和基地から放球

### 高エネルギーー次宇宙線生成機構の解明

## 南極地域観測第V期5ヶ年計画 第2次PPB実験計画の宇宙物理学的観測

#### 南極周回気球 PPB 7号機

### 研究者代表 神奈川大 鳥居祥二

田村忠久、立山暢人、吉田健二、安楽和明、山下太郎、西村 純、山上隆正、 斎藤芳隆、太田茂雄、並木道義、松坂幸彦、山岸久雄、門倉 昭、笠原克昌、 小河哲之、藤井 森、柴田槇雄、片寄祐作、井上 武、北村 尚、村上浩之、 小林 正、古森良志子、水谷興平、平井勇佑、常 進

> 神奈川大学、宇宙科学研究本部、国立極地研、 芝浦工業大学、横浜国立大学、 放射線医学総合研究所、立教大学、 青山学院大学、神奈川県立保健福祉大学、 埼玉大学、紫金山天文台

### PPB-BETSの観測目的

- 近傍加速源の同定
   エネルギースペクトルと到来方向異方性
- 銀河内での宇宙線の拡散係数の決定





(Kobayashi et al. ApJ (2004))

## BETSによる電子・ガンマ線観測

BETS: Balloon-borne Electron Telescope with Scintillating fibers

 電子観測のためのSciFi / Lead イメージング・カロリメータの開発 NIM 457, 499-508 (2001)
 三陸における電子観測 10 ~ 100 GeV ApJ 559, 973-984 (2001)
 BETSの改良による大気ガンマ線強度観測 Phys Rev D 66, 052004(1-9) (2002)



BETS 検出器

#### CERNビーム実験によるシャワー画像例

### BETS から PPB-BETS へ

B	E	T	S
В	E		2

エネルギー領域10 ~ 100 GeV気球フライト三陸ブーメラン

バラスト

装置重量 真空対策 電力供給 データ記録

10 GeV ~ 1 TeV 三陸ブーメラン 南極周回 4.5時間(1997) 30日間 8.3時間(1998) 240 kg 100 ~ 150 kg コマンドコントロール 380 kg 200 kg 耐圧容器 リチウム電池 テレメトリ(32 kbps) 磁気テープ(5 GB) 海上回収

#### **PPB-BETS**

オートレベルコントロール 部分的に耐圧容器、熱対策、放電対策 太陽電池 + 充電池 テレメトリ(64 kbps) イリジウム衛星電話(2.4 kbps) シリコンディスク(1 GB) 昭和基地に戻ってきたときのみ

回収

#### PPB-BETSイメージングカロリメータ



### BETS から PPB-BETS への II-CCD の改良



BETSに比べると、ファイバ当たりのCCD画素が15倍、 S/Nが6倍、合わせて100倍のダイナミックレンジを得られた。 体積は半分になった。

### PPB-BETS SciFi/Lead 検出器





シンチファイバーベルト



ファイバー読み出し型 トリガーシンチレータ

## 高エネルギートリガー

100GeV以上の高エネルギーイベントをイリジウム(2.4kbps)で転送するために...

#### 1<sup>st</sup>トリガー: エネルギー閾値

2<sup>nd</sup> トリガー:シャワーカーブ



## トリガーシステムの三陸におけるテストフライト



BETS-1の耐圧容器

#### 目的

データ転送レートが限られるため、
 トリガーシステムをアップグレードした
 全データ転送が可能なことを検証

・BETSから推定されるPPB-BETSの
 トリガーレート 0.04 Hz(>100GeV)
 ・2ndトリガー(シャワーカーブ判定)で
 0.02 Hz にする
 ・推定を超えるとイリジウム電話の転
 送レート2 kbps に収まらない





## CERN-SPSにおける電子・陽子ビーム実験







## ビーム実験結果: CCD画像例





#### 150 GeV proton



#### 200 GeV electron

**50 GeV electron** 

#### 350 GeV proton

## ビーム実験結果: CCD画像輝度分布



CCD輝度:16 bits LOG変換:16 bits 8 bits 圧縮:Zero-Length, Hafman







エネルギー分解能 ~ 12%@100GeV

## シャワー再構成、画像解析

CCD イメージ



#### µ データで求めたSciFi位置



再構成シャワー画像



フィッティングで得られたシャワー軸

#### **Angular Resolution**



**Distributions of shower axis** for vertical electron beams with different energies.

The resolution is <0.6 degree for vertical electron beams with energy from 10 GeV to 200 GeV. It will be improved by correction of SciFi positions.

### 電子·陽子選別





**RE distributions** of vertical beam. (normalized by number of events)

The REs for electrons concentrate around **0.85**, but those for protons distribute widely.

#### **Energy Concentration**

#### **PPB-BETS**



RE distribution with different energy beam for BETS-2. The peaks shifted to left as beam energies increased.





For PPB-BETS, the shifts of peaks disappeared because of improvement of I.I and CCD system.

### PPB-BETSの基本性能

Detector Weight (Total Weight including bar Power Consumption Observation Altitude Data Transfer Rate	200 kg allast for 30 days 70 W ~35 km 2.4 kbps ( 64 kbps	including un-pressurized gondola 500 kg ) supplied by solar batteries controlled by auto-level system by the Iridium telephone line by the telemetry to the stations)
Energy Range	10 ~1000 GeV	by two modes of trigger
Geometrical Factor	550~600 cm <sup>2</sup> sr	by simulation (> 100 GeV)
Energy Resolution	12~ 16 %	by plastic scintillators
Angular Resolution	0.35~ 0.6 °	by shower image of SciFis

## 荷出し直前のPPB-BETS 観測装置



## データ収集系ブロック図











### 昭和基地 2002年(第44次隊)



## PPB-BETS 放球 2004年1月5日(第45次隊)



### PPB-BETS 2004 フライト

- 昭和基地より2004年1月4日放球
- 現地時間 18時57分 (日本時間 5日0時57分)
- 放球時 地上風 4 m/s (瞬間風速 6 m/s)
- 平均水平浮遊高度 34.6 km (7.3 g/cm<sup>2</sup>)
- 1月4日から17日までの13日間のフライト

HE ~ 5700イベント LE ~ 22000イベント



## トリガーシステムとデータ転送システム



## イリジウム衛星電話によるデータ転送システム

イリジウム衛星電話 2.4 kbps

1)画像データ 5 ファイル
 2)コマンド送信
 3)HKデータ 1ファイル(254 byte)

・データ転送 1ファイル=1イベント エラー確認、再転送

イリジウム:66衛星 (6軌道面×11衛星)

・コマンド

 1stトリガーのディスクリ値 14ch (HE 9, LE 3, SINGLE 2)
 Page 1 ~ 8 (予め設定値を用意)
 個別チャンネル設定
 ディスクリ14chのマスク設定
 トリガーモード (HE, LE, SINGLE, LED)
 2ndトリガーの設定・解除
 (I.I.ゲイン変更)
 (テレメトリモード切替え)



Motorola 9505 : 7W

### WEBによるモニター

#### 🌌 HK – Microsoft Internet Explorer

get C Auto C Specify		send input	prev	0504	Filena Newes	me Hl stfile Hl	K07464 I K07464	Mod. Ja	an 17 10	:44:08	JST	
	HV HV1 HV2	763.07 573.33	M M	BAT.V	V2 I.I. 1	13.535 7.61	M M	DISCR	1:0LL 2:0LU	243 743	0.24 0.74	M M
	DIREC DIR1 DIR2 DIR3	452.82 0.03 0.04 0.08	[V] 0 0 0	PI	1.1. 2 PI V1 PI V2 PI V3	7.48 11.879 -12.07 5.10	M M M M		3:1HL 4:0HU 5:2LL 6:2HL	678 1274 276 1546	0.67 1.27 0.27 1.54	M M M
Sec	DIR4 DIR5 DIR6	0.0 2.26 1.50	U D D		PIV4 PIV5 PIV6	4.98 -5.049 15.009	M M M		7:3HL 8:2SL 9:4HL	2042 241 1022	2.04 0.24 1.02	M M M
S0 56729 [Hz] S1 27053 [Hz]	DIR7 DIR8 GA GA1	0.07 0.08 3.24	0 0 0	BAT.I BAT.V AUTOB	Norm 2/4 V3 FC-LM	0.01 13.511 3171050.	[A] [M] [counts]		10:5HL 11:6HL 12:7HL	1972 445 402	1.97 0.44 0.4	M M M
S2 64756 [Hz] S3 35091 [Hz] S4 38707 [Hz]	GA2 TMP THM1 THM2	0.07 I 44.908 2 41.440	[ [degC] [degC]		FC-H ST PRS-L PRS-H	16.0 6.60 6.62	[status] [hPa] [hPa]		13:7LL 14:8HL 15:	337 3796 4072	0.33 3.79 4.07	M M M
S5 53391 [Hz] S6 28301 [Hz]	THM: THM4 THM5	3 51.404 4 51.990 5 46.764	[degC] [degC] [degC]	GPS	BL-NUM ENB/DSB GPS-ALT	35.587 0.0 34900.	(times) (ch) (m)	TRIG DISCR	MASK 1:0LL 2:0LU	0x0 245 751	0.84 4.99	[ptc]
S7 49889 [Hz] S8 40334 [Hz] DAQ DAQ 52116 [Hz]	THM6 THM3 THM9	6 48.962 7 57.460 8 53.064	[degC] [degC] [degC]	AUTOB	BL-DRP-T BL-DRP-P GPS-LAT	4190.0 7.29 63.5079	[s] [hPa] [DDMM1]		3:1HL 4:0HU 5:2U	690 1290 284	7.99 11.99 10.01	[ptc] [ptc] [ptc]
TRIG SINGL36855 [Hz] LOW 51825 [Hz]	SOL-T THM THM	1 39.291 2 51.306 3 33.821	[degC] [degC] [degC]		GPS-LONG DAY-HR MIN-SEC	164.4948 17.01 46.15	(DDDMM (DD.HH0 (MM SS0)		6:2HL 7:3HL 8:2SI	1566 2062 251	25.0 250.01 0.69	[ptc] [ptc] [ptc]
LIVE LIVE 55356 [%]	THM BAT-T THM THM	4 28.84 I 63.614 2 61.367	[degC] [degC] [degC]	Pres. SDisk	I.I.1 I.I.2 Avail-H	1.80 1.96 778332	[M] [M] [KB]		9:4HL 10:5HL 11:6HL	1034 1994 451	399.79 400.07 650.52	(ptc) (ptc) (ptc]
	THM: THM4 SOLAR VOLT	3 64.297 4 64.151 7 18.480	(degC) (degC) (M)	CNT DUMMY	Avail-L 2nd-TRG PRS.1000	760.08 16241. 7.48	(MB) (counts) (hPa)		12:7HL 13:7LL 14:8HL	408 338 3840	650.0 39.92 8118.46	(ptc) (ptc) (ptc)
	Elec. BAT.V V1 BAT.I Norm	l 4.48 13.546 n 1/3 0.00	[A] [M] [A]					TRIG	15: MODE	4095 0x0c	4.09	Μ

#### 日本物理学会2004年秋季大会(高知大学)

## 電子と思われるシャワー画像例

#### 200 GeV



#### 600 GeV



#### 2004.09.29

### LED画像データ

## タイマーによるトリガーで約1時間に1回LED画像を取得 LEDで144本のクリアファイバーを光らせる フライト中のファイバー位置補正用



## CCD画像から検出器でのSciFi配置へ再構成

### CCD画像





### SciFi に対応する点











### 電子・ガンマ線と陽子の弁別





### 電子・ガンマ線と陽子の弁別



電子・ガンマ 選別

### シャワー上部 (0 r.l.) でシャワー軸上に SCIFIにヒットしているか





電子候補

ガンマ線候補

#### **Preliminary Results**



#### まとめ

- 南極周回気球によってPPB-BETS(PPB-7号機)は13日間の観測を実現した。 これは三陸でのBETSによる観測時間合計の10倍以上の長時間観測である。
- 取得されたデータは、エネルギー10GeV以上で22000イベント、100GeV以上で 5700イベントとなった。このうち100GeV以上の電子の期待数は100例程度で、 これは三陸でのBETSによる観測数の数十倍である。
- 現在、取得データの半分ほどを解析し、100GeV以上でほぼ予測される数の電
   子を検出している。残りのデータも解析を続けている。
- 第2次PPB実験のためにイリジウム衛星電話によるデータ転送、コマンド送受 信のシステムが開発され、気球観測の通信技術の革新となった。
- 太陽電池 + 充電池による電力供給システムが確立され、安定した長期間気球 観測への対応が可能となった。
- オートバラストシステムによって高高度でのレベルフライトが可能になった。
- 極地研と宇宙研の共同プロジェクトによって、大型観測装置による長時間気
   球観測の道が開かれた。特に44次および45次の隊員の皆さんの厳しい現地での活躍が貴重なデータの取得に結びついた。
- さらなる長期間観測(~100日間)を目指したスーパープレッシャー気球などの気球技術の発展に期待。